

テーマ：商業販売統計（2006年7月）

発表日：2006年8月30日（水）

～ 低調な結果だが、予想の範囲内。8月以降は持ち直しへ ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（要旨）

- 小売業販売額は前年比▲0.2%と、コンセンサスを若干下振れ。梅雨明けの遅れに伴う天候不順の影響で7月までの財消費は低調に推移したという状況が改めて確認された。
- 8月に関しては天候も比較的良好で、これまでのように天候要因で消費が押し下げられる可能性は小さい。今後、個人消費は実力に見合ったベースでの回復傾向に復帰してくる可能性が高い。むしろ、これまで押し下げられていた反動から、やや強めの数字が出てくる可能性にも注意が必要。
- 雇用・所得環境も順調に回復しており、個人消費を取り巻く環境は良好な状態が続いている。今後も個人消費は景気の下支え要因として働く見込み。

（単位：%）

		商業販売額										コンビニ販売額				
		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー		前年比	既存店前年比
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	既存店前年比	既存店前年比					
05	1月	3.8	3.5	4.3	1.9	2.4	3.6	1.3	▲1.3	0.7	▲2.6	1.3	▲1.9			
	2月	2.2	▲2.2	3.8	▲0.6	▲2.7	▲2.2	▲4.2	▲6.7	▲7.2	▲6.4	▲1.9	▲2.8			
	3月	0.7	▲3.6	0.9	▲5.1	0.3	▲0.5	▲2.5	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5			
	4月	3.1	4.9	2.9	5.8	3.8	2.3	▲0.6	▲2.4	▲0.5	▲3.6	2.3	▲1.2			
	5月	3.1	▲2.1	3.2	▲2.0	2.9	▲1.0	▲0.7	▲3.1	▲1.4	▲4.2	1.3	▲2.0			
	6月	1.9	1.1	1.6	1.2	3.0	0.0	▲0.1	▲1.9	0.7	▲3.6	2.2	▲1.4			
	7月	0.3	0.6	0.2	1.2	0.6	▲1.4	▲0.4	▲1.7	0.6	▲3.4	▲1.1	▲4.9			
	8月	4.7	1.3	5.7	1.6	1.6	0.7	▲1.3	▲2.9	▲1.1	▲4.0	2.0	▲1.4			
	9月	1.5	▲2.7	1.8	▲3.4	0.2	▲0.6	▲1.0	▲2.8	▲0.2	▲4.5	3.5	▲0.3			
	10月	2.2	2.6	3.0	3.4	▲0.4	▲0.3	▲1.9	▲3.4	▲0.4	▲5.4	0.5	▲3.0			
	11月	4.2	1.6	5.3	2.0	0.6	0.4	1.8	0.8	3.1	▲1.0	▲0.5	▲3.9			
	12月	4.4	0.3	5.4	0.5	1.3	0.4	0.7	0.6	0.9	0.3	0.1	▲3.4			
06	1月	5.3	4.0	7.4	3.1	▲0.4	2.4	▲2.3	▲2.8	▲0.9	▲4.1	0.3	▲3.2			
	2月	5.5	▲2.7	6.9	▲2.0	1.1	▲1.4	▲1.6	▲1.9	0.3	▲3.3	1.2	▲2.4			
	3月	3.3	▲5.1	3.9	▲6.8	1.0	▲0.3	0.1	▲0.3	1.8	▲1.8	0.7	▲2.6			
	4月	4.1	5.6	5.6	7.4	▲0.8	▲0.1	▲0.5	▲0.9	▲0.4	▲1.3	▲1.8	▲5.0			
	5月	6.8	0.0	9.1	0.3	0.1	0.6	▲0.9	▲1.6	▲1.2	▲1.9	0.2	▲2.9			
	6月	5.1	▲0.1	6.5	▲0.3	0.2	▲0.1	▲0.5	▲1.2	▲1.9	▲0.7	3.2	0.6			
	7月	5.0	0.6	6.7	1.3	▲0.2	▲1.7	▲1.4	▲1.7	▲1.4	▲2.0	▲2.4	▲5.2			

（出所） 経済産業省「商業販売統計」

○ やや弱めの結果

本日、経済産業省より2006年7月の商業販売統計が公表された。小売業販売額は前年比▲0.2%と3ヶ月ぶりに前年比マイナスとなり、コンセンサス（+0.4%、レンジ▲0.6%～+1.4%）を若干下回った。季節調整値でも前月比▲1.7%と、やや大きなマイナス幅となっている。また、大型小売店販売額は前年比▲1.7%（既存店）、季調済み前月比（全店）▲1.4%となった。業態別でも百貨店販売額は前年比▲1.4%、スーパーは同▲2.0%とマイナスが続いている。また、たばこ増税前の駆け込みで6月は好調だったコンビニエンスストア販売も、7月には反動から前年比▲5.2%（既存店）と大きく落ち込んでいる。なお、小売業を業種別にみると、天候不順の影響で各種商品小売業や飲食料品小売業が落ち込んだほか、国内自動車販売の低迷を受けて自動車小売業も不振だった。

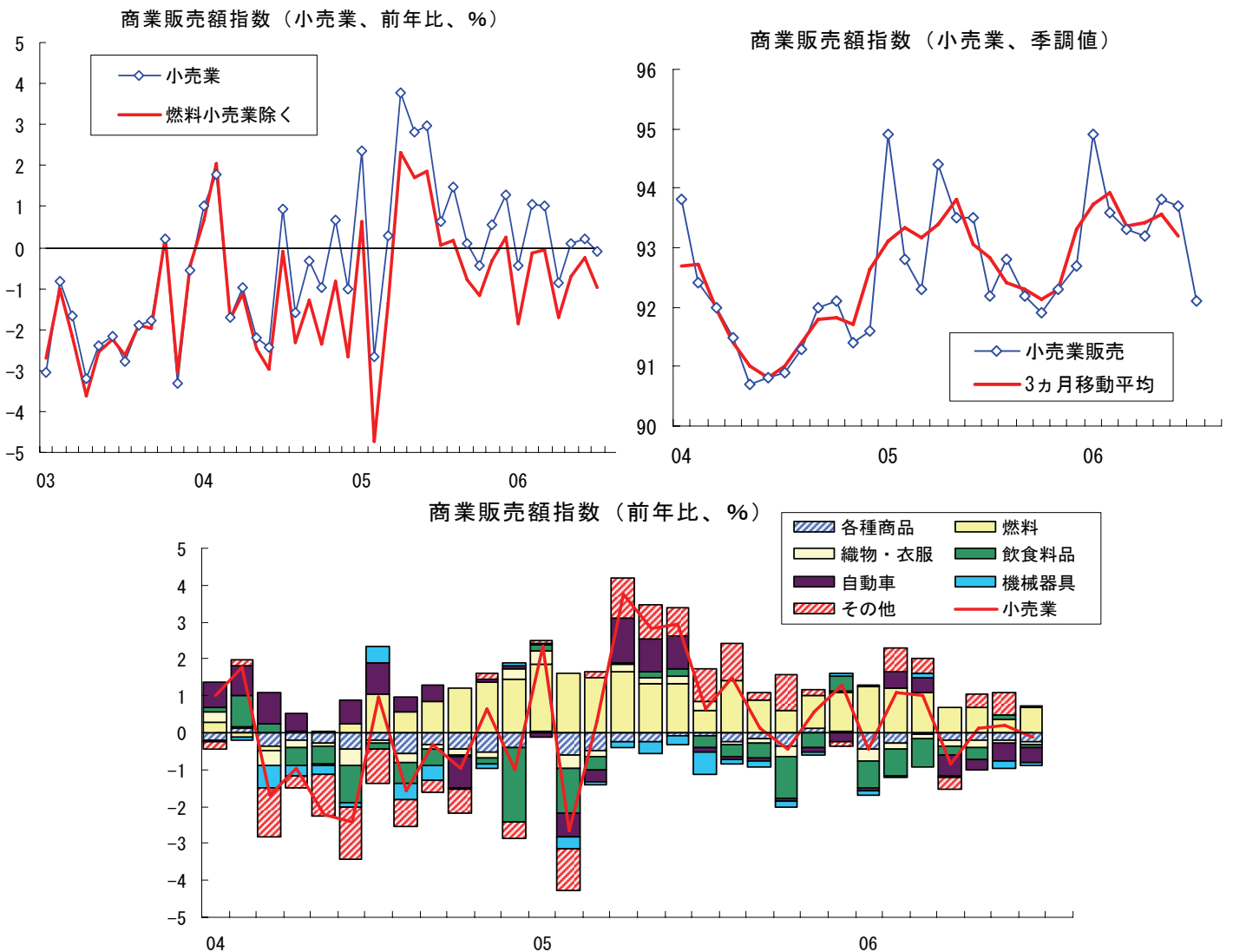
○ 天候不順要因が剥落する8月以降は消費には回復へ

今月の小売業販売額は、季節調整値でのマイナス幅が大きく、やや弱めの結果に終わった。これは事前に公表されていた家計調査や百貨店販売などの指標と整合的な動きであり、特に意外感はない。梅雨明けの遅れに伴う天候不順の影響で7月までの個人消費は低調に推移したという状況が改めて確認された。

もともと、8月に関しては天候も比較的良好で、これまでのように天候要因で消費が押し下げられる可能性は小さいだろう。8月以降に関しては、個人消費は実力に見合ったペースでの回復傾向に復帰してくる可能性が高いと思われる。むしろ、これまで押し下げられていた反動から、やや強めの数字が出てくる可能性にも注意が必要だろう。

雇用・所得環境も順調に回復しており、個人消費を取り巻く環境は良好な状態が続いている。年度下期には、米国経済の鈍化等の要因から景気モメンタムの鈍化が予想されるが、その時期にも個人消費は堅調に推移し、景気の下支え要因として働くと思われる。

なお、リスク要因としては、消費者マインドの動向が挙げられる。このところの消費者マインドは改善にやや足踏みがみられる。株価が一時期に比べて落ち着いてきたことや、マインドの水準は非常に高いことなどから、マインドの悪化が消費の抑制要因になる可能性は低いとは考えているが、今後、ガソリン価格上昇等が予想以上にマインドを押し下げ、消費意欲を減退させるリスクには一定の注意が必要と思われる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。